

1 日常の学習状況について

- (1) 道徳の年間指導計画に沿って、すべての学級が同じ内容項目、同じ題材を、教科書や道徳ノートその他の教材を利用して指導している。授業者は授業後にノートを確認し、生徒の授業前と授業後の変容を見取っている。ホワイトボードや学習者用端末を使用して、小グループでの意見交換なども取り入れている。意見交換をする際は、様々な考えがあることを生徒たちに実感させるように指導している。
- (2) 「考え、議論する」授業に結びつけていくために、以下のような流れで指導し、定着を図っている。
 - ①価値項目を確認し、題材に触れ、教師の発問に対して自分の考えをまとめ、小グループで意見交換をする。
 - ②それぞれのグループの発表からより多くの他者の考えに触れ、発表を通して感じたことをプリントにまとめる。
 - ③その後、自分の考えを振り返り、深める。

2 日頃の学校生活の様子を踏まえて

- (1) 1学期は、「主として自分自身に関すること」について取り上げ、特に「向上心、個性の伸長」や「強い意志」などの価値項目について理解を深めた。学期始めということもあり、「よりよい学校生活、集団生活の充実」「相互理解」についても理解を深めた。学校生活やその他の場面で、生徒たちが道徳での学びを生かしよりよく生きることができているかどうか、認め、励ましている。
- (2) 1学期の授業の様子から、日常で起こる身近な事柄に目を向け、自分自身の問題としてとらえ、どのように解決したらよいかを考え発表することで人権尊重の意識を高めていくよう加えて指導する。

3 教科の課題

- (1) 学習面
 - ・主な教材として教科書を活用するため、「1つの発問に対して答えが1つ」という先入観にとらわれる生徒もいる。道徳の発問を自分ごととしてとらえて考え、グループで議論することでさらに考えを深化させるイメージをもたせることが必要である。
- (2) 指導面
 - ・道徳科と国語科の求めるところが違うことを本質としてどこまで理解し指導できるかに課題がある。葛藤する場面の問題提起をする発問の工夫をていねいに行う必要がある。生徒が考えを深めるきっかけになる発問をする必要がある。

4 授業改善について

- (1) 学習面
 - ・年間通じて生徒の変容が見られるように、道徳ノートに個々の考えを蓄積する。
 - ・道徳ノートに自分の考えを書くことができない生徒には個別に声をかけ、促す。
- (2) 指導面
 - ・学習後、道徳ノートの内容を丁寧に読み取り、生徒一人一人の変容を適切に評価する。
 - ・指導方法を話し合い、指導者が学級の実態に即して指導できるように指導技術の交流、向上を図る。
 - ・学習者用端末を使用し、生徒たちの議論の結果を瞬時にフィードバックする技術を習得する。
 - ・道徳の評価の考え方・進め方について、PDCAサイクルで指導の効果を上げていく。

5 成果の確認

- (1) 授業ノートを授業者がすぐに評価・分析し、生徒の変容を確認していく。
- (2) 授業アンケートにおいて、道徳の授業について生徒へアンケートを実施する。

1 日常の学習状況について

- (3) 道徳の年間指導計画に沿って、すべての学級が同じ内容項目、同じ題材を、教科書や道徳ノートその他の教材を利用して指導している。授業者は授業後にノートを確認し、生徒の授業前と授業後の変容を見取っている。ホワイトボードやタブレットを使用して、小グループでの意見交換なども取り入れている。意見交換をする際は、様々な考えがあることを生徒たちに実感させるように指導している。
- (4) 「考え、議論する」授業に結びつけていくために、以下のような流れで指導し、定着を図っている。
- ①価値項目を確認し、題材に触れ、教師の発問に対して自分の考えをまとめ、小グループで意見交換をさせる。
 - ②それぞれのグループの発表からより多くの他者の考えに触れ、発表を通して感じたことをプリントにまとめさせる。
 - ③その後、自分の考えを振り返り、深めさせる。

2 日頃の学校生活の様子を踏まえて

- (3) 1 学期は、「よりよい学校生活、集団生活の充実」、「自主、自立、自由と責任」、「思いやり、感謝」「友情、信頼」などの価値項目について理解を深めた。
- (2) 理解を深めた内容を、日頃の学校生活やその他の場面で生徒たちが生かし、よりよく生きることができているかどうか、認め、励ましている。

3 教科の課題

- (3) 学習面
- ・主な教材として教科書を活用するため、「1 つの発問に対して答えが 1 つ」という先入観にとらわれる生徒もいる。道徳の発問を自分ごととしてとらえ考えさせ、グループで議論することでさらに考えを深化させるイメージをもたせることが必要である。
- (4) 指導面
- ・道徳科と国語科の求めるところが違うことを本質としてどこまで理解し指導できるかに課題がある。葛藤する場面の問題提起をする発問の工夫をていねいに行う必要がある。生徒が考えを深めるきっかけになる発問をする必要がある。

4 授業改善について

- (3) 学習面
- ・年間通じて生徒の変容が見られるように、道徳ノートに個々の考えを蓄積する。
 - ・道徳ノートに自分の考えを書くことができない生徒には個別に声をかけ、促す。
- (4) 指導面
- ・学習後、道徳ノートの内容を丁寧に読み取り、生徒一人一人の変容を適切に評価する。
 - ・指導方法を話し合い、指導者が学級の実態に即して指導できるように指導技術の交流、向上を図る。
 - ・タブレットを使って、生徒たちの議論の結果を瞬時にフィードバックする技術を習得する。
 - ・道徳の評価の考え方・進め方について、PDCA サイクルで指導の効果を上げていく。

5 成果の確認

- (1) 授業プリントを授業者がすぐに評価・分析し、生徒の変容を確認していく。
- (2) 授業アンケート並びに学校評価において、道徳の授業について生徒・保護者アンケートを実施する。

1 日常の学習状況について

- (5) 道徳の年間指導計画に沿って、すべての学級が同じ内容項目、同じ題材を、教科書や道徳ノートその他の教材を利用して指導している。授業者は授業後にノートを確認し、生徒の授業前と授業後の変容を見取っている。ホワイトボードやタブレットを使用して、小グループでの意見交換なども取り入れている。意見交換をする際は、様々な考えがあることを生徒たちに実感させるように指導している。
- (6) 「考え、議論する」授業に結びつけていくために、以下のような流れで指導し、定着を図っている。
 - ①価値項目を確認し、題材に触れ、教師の発問に対して自分の考えをまとめ、小グループで意見交換をさせる。
 - ②それぞれのグループの発表からより多くの他者の考えに触れ、発表を通して感じたことをプリントにまとめさせる。
 - ③その後、自分の考えを振り返り、深めさせる。

2 日頃の学校生活の様子を踏まえて

- (4) 1学期は、「自主・自立」、「遵法精神・公德心」、「向上心・個性の伸長」、「友情、信頼」などの価値項目について理解を深めた。
- (2) 理解を深めた内容を、日頃の学校生活やその他の場面で生徒たちが生かし、よりよく生きることができているかどうか、認め、励ましている。

3 教科の課題

- (5) 学習面
 - ・主な教材として教科書を活用するため、「1つの発問に対して答えが1つ」という先入観にとらわれる生徒もいる。道徳の発問を自分ごととしてとらえ考えさせ、グループで議論することでさらに考えを深化させるイメージをもたせることが必要である。
- (6) 指導面
 - ・道徳科と国語科の求めるところが違うことを本質としてどこまで理解し指導できるかに課題がある。葛藤する場面の問題提起をする発問の工夫をていねいに行う必要がある。生徒が考えを深めるきっかけになる発問をする必要がある。

4 授業改善について

- (5) 学習面
 - ・年間通じて生徒の変容が見られるように、道徳ノートに個々の考えを蓄積する。
 - ・道徳ノートに自分の考えを書くことができない生徒には個別に声をかけ、促す。
- (6) 指導面
 - ・学習後、道徳ノートの内容を丁寧に読み取り、生徒一人一人の変容を適切に評価する。
 - ・指導方法を話し合い、指導者が学級の実態に即して指導できるように指導技術の交流、向上を図る。
 - ・タブレットを使って、生徒たちの議論の結果を瞬時にフィードバックする技術を習得する。
 - ・道徳の評価の考え方・進め方について、PDCAサイクルで指導の効果を上げていく。

5 成果の確認

- (1) 授業プリントを授業者がすぐに評価・分析し、生徒の変容を確認していく。
- (2) 授業アンケート並びに学校評価において、道徳の授業について生徒・保護者アンケートを実施する。